

私は2011年4月に、軽水炉の炉内腐食環境の評価技術の高度化に向け、当時再稼働が予定されていたJMTRを用いた水化学試験に従事すべく原子力機構に入所いたしました。しかし、ちょうどその3週間前に震災及び福島第一原子力発電所事故が起こり、その後の研究生活が大きく変化いたしました。学生時代にラジオリシスに関する研究を行っていたことから、福島第一原子力発電所に注入された海水に着目し、海水成分のラジオリシスへの影響評価に取り組んでまいりました。その後の廃炉作業の進捗に応じ、現在は長期的な腐食の進行へのラジオリシス影響評価を調べています。この度の奨励賞授賞により、私のこれらの研究成果を評価いただき誠にありがとうございます。

この度の賞を一つの励みとして、今後も福島第一原子力発電所の炉内環境等を想定した複雑なラジオリシス環境の評価に関する研究に取り組みたいと考えております。また、事故から9年が経ち軽水炉及び水化学に関する情勢も変化してきています。このような流れに対応すべく、当初の目的であります軽水炉の炉内腐食環境評価に関する新たな研究も展開していきたいと考えております。今後とも当部会の皆様からのご支援を受けてこれらの研究に邁進してまいりたい所存です。

(日本原子力研究開発機構 端 邦樹)